

アナレーナ・ベアボック独外相による本日のG7外相会合議長としての声明
(2022年12月22日)

ロシアのウクライナに対する侵略戦争

1. 本日、本年12回目の会合において、カナダ、フランス、ドイツ、イタリア、日本、英国、米国のG7外相及びEU上級代表は、ロシアのウクライナに対する不法で、不当な、いわれのない侵略戦争を、可能な限り最も強い言葉で再度非難し、必要な限り、ウクライナ及び同国民への完全な連帯と揺るぎない支持を表明した。G7外相及び上級代表は、国際的に認められた国境内でのウクライナの独立、主権及び領土一体性に対する確固たるコミットメントを強調した。
2. G7外相及び上級代表は、過去のG7外相声明を想起しつつ、決して認められることのないロシアによる主権国家としてのウクライナの領土の違法な「併合」の試み、民間人の殺害、拷問、報告されている処刑、性暴力、子どもを含むロシアへの移送を含むロシア軍により犯された残虐行為への強い非難を改めて表明した。G7メンバーは、戦争犯罪及びその他の残虐行為は不処罰となり得ないことを強調した。G7メンバーは、国際法に従い、プーチン大統領及びその他の責任者の責任を追及していく。G7メンバーは、ロシアによるエネルギー及び食料の武器化は世界で最も脆弱な人々に特に影響を与えること、また、ロシアによる偽情報と虚偽の告発の拡散、ロシアの無責任な核のレトリック及びロシアによるザポリジヤ原子力発電所の占拠と軍事化は受け入れられないことを改めて表明した。G7メンバーは、ザポリジヤ原子力発電所に原子力安全及び核セキュリティ区域を設定するための国際原子力機関の活動への完全な支持を再度強調した。
3. G7メンバーは、ベラルーシ当局に対し、ロシア軍に対してベラルーシ領土の使用を許可し、また、ロシア軍に支援を提供することにより、ロシアの侵略戦争を可能にすることを止めるよう、引き続き求める。ロシアの違法な侵略戦争へのいかなる更なる能動的な参加も、ベラルーシ国民の意志と願望に反するであろう。ベラルーシ当局が、ロシアの戦争にベラルーシをより直接的に関与させる場合、G7はベラルーシ政権に圧倒的な追加的コストを科す。
4. ミサイル及びイランのドローンを用いた、ウクライナの重要インフラ、特にエネルギー、暖房及び水道施設に対するロシアの大規模かつ意図的な攻撃は、何百万ものウクライナ国民を冬の暗闇と寒さに晒している。これらの野蛮な攻撃を通じて、ロシアは民間人を恐怖に陥れようとしている。G7メンバーは、無差別攻撃並びに民間人又は民用物への攻撃は戦争犯罪を構成することを想起し

た。G7 メンバーは、人道危機に対応する G7 プラスの取組を更に促進した、12 月 13 日にパリで開催された国際会議のフォローを含め、この冬を通じて、ウクライナ国民を支援するために更に努力することを強調した。ウクライナの修復、復旧及び復興を支援することを決意しつつ、G7 メンバーは、重要インフラ及びウクライナの復旧の分野を含む更なる国際的な支援を調整することの重要性を想起し、複数の機関から成るドナー調整プラットフォームを設置するための G7 首脳による最近の合意を歓迎した。

5. G7 メンバーは、軍事及び防衛装備、特に防空のためのウクライナの緊急の要求を満たす取組を強化し、緊密に調整することにコミットした。G7 メンバーは、これは人命を救い、市民の更なる苦しみを防ぐために不可欠であることを強調した。
6. G7 メンバーはまた、ウクライナの主権及び領土一体性の防衛を支援するために、財政的、物的、人道的、防衛的、政治的、技術的及び法的な支援を引き続き調整する完全な決意を改めて表明した。G7 メンバーは、ロシアのウクライナに対する侵略戦争に対する前例のない協調した制裁に引き続きコミットした。G7 メンバーは、ロシア及び制限的措置を回避し弱体化させる者に対する経済的圧力を維持し、強化していく。G7 メンバーは、第三国に対し、プライス・キャップ連合により設定された、海上輸送されるロシア産の原油の 1 バレル当たりの上限価格を利用し、ロシアの石油輸出による歳入を減らすための協調的な行動を含む、G7 の取組に参加することを奨励した。G7 メンバーは、ロシアのウクライナに対する侵略戦争並びにロシアによるエネルギー及び食料の武器化の影響を深刻に受けている脆弱な国々を守るとのコミットメントを改めて表明した。
7. G7 メンバーは、祖国のために戦うウクライナの人々の勇敢さを称賛した。G7 は、ウクライナの当面の金融の安定を確保し、持続可能で繁栄した未来に向けたウクライナの復旧及び復興を支援する取組を堅く支持し、ウクライナの改革アジェンダを奨励した。G7 メンバーは、ウクライナが欧州への道に沿って自由で民主的な未来を確保するのを完全に支持することに引き続きコミットした。G7 メンバーは、自由と民主主義という共通の価値を強調し、ルールに基づく多国間秩序及び国際協力を堅持することにコミットしている。
8. G7 メンバーは、公正かつ永続的な平和を推進するためのゼレンスキー大統領の取組を歓迎し、支持した。ロシアは、ウクライナに対する攻撃を停止し、国際的に認められた国境内のウクライナ全土から軍隊及び装備品を完全かつ無条件に撤退させることにより、この戦争を直ちに終わらせることができる。G7 メンバーは、ロシアに対し、直ちにそうするよう再度求めた。

アフガニスタン

9. G7 メンバーは、タリバーンが、大学から女性を追放し、女兒を中等教育学校から引き続き除外し、アフガニスタンの女性と女兒が人権及び基本的自由を行使する能力に対して更なる厳しい制限を課した最近の決定を強く非難した。G7 メンバーは、タリバーンに対し、女性の大学教育の禁止を放棄し、女兒の中等教育学校へのアクセスを禁止する既存の決定を遅滞なく元に戻すよう求めた。タリバーンによる最近の措置は、アフガニスタンの女性と女兒の人権及び基本的自由を行使する能力を制限する、これまで積み重ねられた措置と併せて、極めて懸念されるものであり、組織的な政策であるように思われる。ジェンダーに基づく迫害は、アフガニスタンが締約国であるローマ規程の下で人道に対する罪に当たる可能性がある。G7 メンバーは、アフガニスタンの国際法上の義務と整合的な人権の行使を求める全てのアフガニスタン人と共にある。女性を公の場から排除しようとするタリバーンの政策は、我々の国がタリバーンにどのように関わるかに影響を与えるだろう。

日本への G7 議長引継

10. 2022 年のドイツ議長の下、G7 メンバーは、国際的なパートナーと共に、共通の価値及び国連憲章を中核とするルールに基づく国際秩序へのコミットメントを基礎として、ウクライナ支援における結束と決意を示してきた。G7 メンバーは、ウクライナ及び世界の最も脆弱なものに害を及ぼしている、ロシアがウクライナに対して引き起こした戦争の世界的な影響を緩和するために、他国等と共に取り組み続ける。G7 は、2023 年に来る日本の G7 議長の下でこのコミットメントを継続し、更に強化する用意がある。

(了)